

## 7. 河川空間の利用状況

阿武隈川における河川の利用状況は、上流域では「阿武隈狭」や「乙字ヶ滝<sup>おつじがたき</sup>」等に代表される良好な河川景観を元にした観光や、蓬莱ダム湖を利用したカヌーレーシング、蓬莱ダム湖下流の自然の流れを利用したカヌースラロームが行われている。中流域では、福島県庁裏の隈畔を利用した灯籠流しや花火大会の他、花見や散策等が行われている。下流域では、壮大な自然景観を呈する阿武隈川渓谷で観光舟下りが行われている他、いかだ下り大会等が行われている。

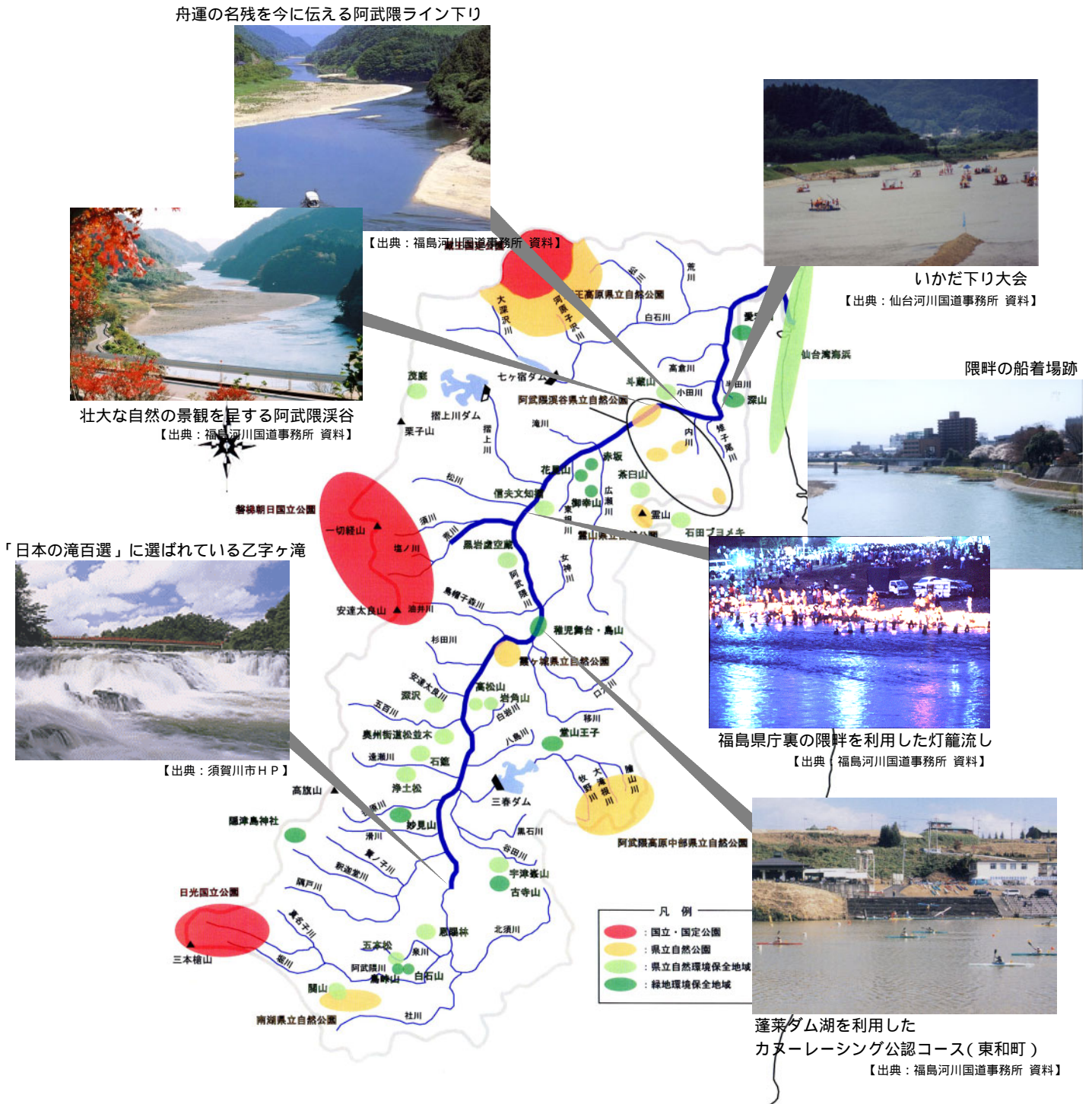


図 7-1 阿武隈川の河川利用状況

## 7 - 1 河川敷の利用状況

### (1) 河川の利用概要

阿武隈川における河川の利用状況は、年間でおおよそ180万人程度であり、利用者数が多い状態にある。これは阿武隈川の河川環境の魅力、ならびに地域のニーズに合わせた施設整備が行われているためと考えられる。

### (2) 河川敷の利用状況

阿武隈川の河川敷には、市街地周辺で運動場や公園等に利用されているほか、河口から上流にかけては堤防等を利用したサイクリングロードが整備され、サイクリングや散策にも活用されている。

### (3) 河川公園の利用状況

阿武隈川の河川環境の魅力の一つとして、風光明媚な趣を醸し出す「隈畔」が挙げられる。「隈畔」とは、「阿武隈川の河畔」を略した造語で、江戸時代盛んであった阿武隈川舟運の基地跡であり、吾妻連峰を背後に流れる阿武隈川の風光明媚な趣は常に人々の心をいやす存在となっている。灯籠流しや花見、散策、釣りやジョギングなどで多くの人々の憩いの場所となっている。

阿武隈川で河川利用形態、利用場所

区分	項目	年間推計値(千人)		利用状況の割合	
		平成2年度	平成3年度	平成2年度	平成3年度
利用形態別	スポーツ	624	321	スポーツ(41%)	スポーツ(18%)
	釣り	158	267	釣り(11%)	釣り(15%)
	水遊び	29	42	水遊び(2%)	水遊び(2%)
	散策等	693	1145	散策等(63%)	散策等(63%)
	合計	1504	1775		
利用場所別	水面	27	36	水面(2%)	水面(2%)
	水際	161	273	水際(11%)	水際(15%)
	高水敷	904	828	高水敷(60%)	高水敷(47%)
	堤防	412	638	堤防(27%)	堤防(36%)
	合計	1504	1775		

阿武隈川での河川利用状況



福島県庁付近での花見

堤防などを利用してサイクリングロードや散策路として活用されている。



【出典：福島河川国道事務所 資料】

### 【隈畔】福島県福島市

「阿武隈川の河畔」を略した造語で、明治時代から使われたと伝えられています。当時は、阿武隈川の河畔全体を言ったようですが、大正の頃からは、現在の県庁裏の阿武隈川左岸を指すようになりました。

現在の県庁一帯は、かつての福島城跡であり、江戸時代盛んであった阿武隈川舟運の基地でもありました。また、吾妻連峰を背後に流れる阿武隈川の風光明媚な趣は常に人々の心をいやす存在であり、明治以降には若山牧水や竹久夢二、さらには森鷗外などの多くの文化人が訪れ、名作の構想を練ったり執筆活動を行ったと言われています。

昭和40年頃までは、貸しボードや花火大会等で賑わいをみせていました。現在でも桜の季節を中心に散策やジョギング、釣りや花見、お盆における灯籠流しなどで多くの人々に利用されています。



【出典：福島河川国道事務所 HP】



7 - 2 河川の利用状況

(1) 舟運

阿武隈川を舟運に利用した起源は古く、主に江戸時代初期から鉄道が開通する明治中頃まで、主に年貢米の運搬のために盛んに行われていた。

近年ではこの舟運時代の歴史に着目し、新たな地域交流を目指した「東日本水回廊構想」がたてられ、これを受けて、舟運の復活に向けての船着き場等の水辺拠点整備や、流域沿河市町村間の交流支援等を推進し、いかだ下り等のイベントやカヌーの体験学習等に活用されている。

この他にも「阿武隈川渓谷」では数多くの奇岩が点在し、河岸には竹林等が生い茂り、雄大な河川景観を呈していることから、この景観を利用した四季を通じた舟下りの観光地となっている。また「阿武隈峡」の狭窄部では、峡谷の自然の流れを利用したカヌースラロームや、蓬萊ダム湖を利用したカヌーレーシングの公認コースにおいて全国大会が行われるなど、活発な水面利用が行われている。



「東日本水回廊構想」位置図



【出典：福島河川国道事務所 資料】

阿武隈川渓谷：阿武隈川ライン下り



カヌー体験による地域交流  
【出典：福島河川国道事務所 資料】

いかだ下り大会



【出典：仙台海川国道事務所 資料】

(2)内水面漁業

阿武隈川における内水面漁業は、宮城県に 3 団体、福島県に 1 団体の協同組合が存在し、漁業および遊魚が行われている。阿武隈川水系における漁業組合 組合員数はおよそ 7,300 人にもおよび（福島県 7,079 人、宮城県 207 人）アユの放流事業、サケ、アユのふ化事業等を行っている。

特にアユに関しては、宮城、福島両県の漁業組合で、合計 6 万 3 千尾もの放流事業を行っている。このことからアユが阿武隈川を代表する魚であることが伺える。

表 7-1 阿武隈川における内水面漁協

	宮城県内	福島県内
漁協の名称	亘理町漁業協同組合 白石川漁業協同組合 宮城県阿武隈川漁業協同組合	福島県阿武隈川漁業協同組合
対象魚種	(亘理町漁協) サケ (白石川漁協) ウナギ、ワカサギ、アユ、イワナ、ニジマス、ヤマメ、オイカワ、ウグイ、コイ、フナ (宮城県阿武隈川漁協) ウナギ、アユ、ニジマス、ヤマメ、ウグイ、オイカワ、コイ、フナ	ウナギ、ワカサギ、アユ、イワナ、ニジマス、ヤマメ、ウグイ、コイ、フナ類、サケ

組合名	組合員数	放流事業	ふ化事業
宮城県 阿武隈川漁業組合	207 人 (H14)	アユ 2 万尾 (H14) 他年にはワカサギ等の 放流も行っている	サケ 5 万 2 千個 内 4 万 9 千 8 百匹の放流
福島県 阿武隈川漁業組合	7,079 人 (H15.3, アユ)	アユ 4 万 3 千尾 (H14) (3,070kg に相当)	

ヒアリング結果より